



everRun クイック スタート ガイド

『everRun クイック スタート ガイド』を使用して、everRun システムを手早く起動して操作を開始できます。

everRun システムには複数の仮想マシン (VM) をサポートできる x86-64 ホスト サーバ ("物理マシン" または "PM" と呼びます) が 2 台と、everRun 可用性コンソールを実行できるリモートの管理用コンピュータが 1 台必要です。このガイドでは PM をセットアップする方法と、次を含む基本的なインストール関連および起動時のタスクについて説明します。

- [2 ページの「必要なものを準備する」](#)
- [3 ページの「RAID コントローラを構成する」](#)
- [4 ページの「システムのケーブルを接続する」](#)
- [6 ページの「ISO イメージを取得する」](#)
- [7 ページの「everRun ソフトウェアをインストールする」](#)
- [10 ページの「everRun 可用性コンソールにログオンする」](#)
- [11 ページの「保護された仮想マシンを作成する」](#)

注意: インストールの処理に関してヘルプが必要な場合は次までお問い合わせください。



- 電話: 866-763-1813 (米国内フリーダイヤル) または 602-852-3094 (米国以外の国)
- **everRun ダウンロードとサポート ページ**
<http://www.stratus.com/go/support/everrun>

ステップ 1: 必要なものを準備する

以下のものおよび情報が必要になります。

- 以下で説明されている要件を満たす 2 台の PM: 「[システム要件の概要](#)」。
- 接続する各ネットワーク用のイーサネットケーブル。
- リモート管理コンピュータ。これはeverRun 可用性コンソールにアクセスできる Web ブラウザがインストールされている汎用の PC です。このコンピュータは最初にインストールする PM と同じビジネス/管理ネットワーク上になければなりません。詳細については、「[everRun 可用性コンソール要件](#)」を参照してください。
- インストール操作を行うためのモニター、キーボード、およびケーブル。
- Stratus から受け取った everRun ライセンス キー。
- everRun ISO イメージ。次からダウンロードできます: **everRun サポート ページ** (<http://www.stratus.com/go/support/everrun>)
- ネットワーク管理者から受け取った、everRun および各 PM の IPv4 アドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレス、および DNS アドレスの値。

ステップ 2: RAID コントローラを構成する

Stratus では、everRun システムにストレージ RAID コントローラを使用することを強く推奨します。everRun システムでは RAID コントローラがシステムの物理ディスクから論理ディスクを作成し、これらの論理ディスクを 1 つのストレージ グループにまとめます。次に推奨される構成内容を示します。

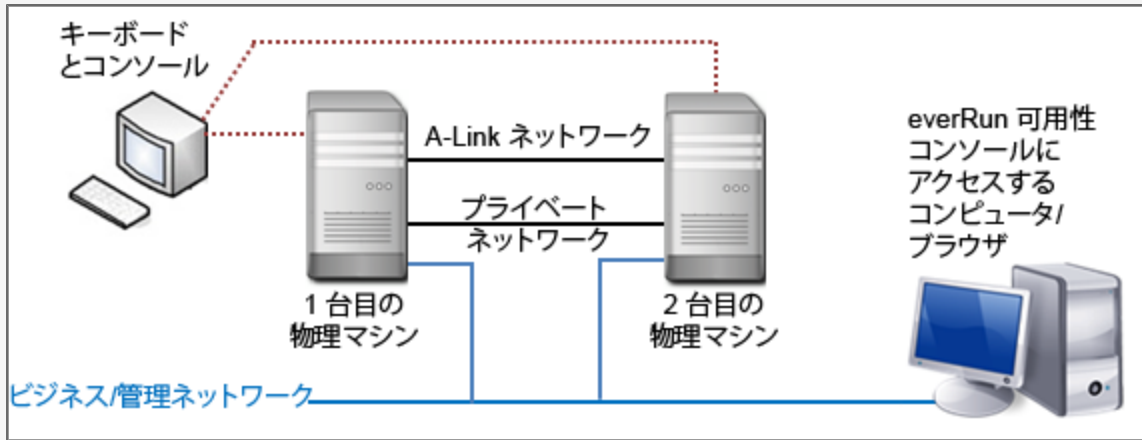
- システムに論理ディスクが 1 つしかない場合、Stratus では、ホストに提示される論理ディスクが冗長な物理ドライブを基盤とするように RAID コントローラを構成することを強く推奨します。
- Stratus では、バッテリー式書き込みキャッシュのある RAID コントローラの使用を強く推奨します。
- 最初の論理ディスクからブートするように RAID コントローラを構成する必要があります。

ステップ 3: システムのケーブルを接続する

各ケーブルを次のように配線します。

- **プライベート ネットワーク:** 1 台目の PM の **1 つ目の内蔵ポート**と 2 台目の PM の **1 つ目の内蔵ポート**を接続します。プライベート ネットワークを A-Link として使用する場合、「[A-Link ネットワークとプライベート ネットワーク](#)」を参照してください。
- **ビジネス/管理ネットワーク:** 最初のビジネス ネットワークが管理ネットワークになります。イーサネット ケーブルで各 PM の **2 つ目の内蔵ポート**をネットワーク スイッチ経由でネットワーク接続し、このネットワークにリモート管理コンピュータを接続します。
- **A-Link ネットワーク:** 各 A-Link ネットワークについて、イーサネット ケーブルで 1 台目の PM の任意の未使用ポートと 2 台目の PM の任意の未使用ポートを直接つなぐか、ネットワーク スイッチ経由でこれらのポートを接続します。
- **ビジネス ネットワーク:** 各ビジネス ネットワークについて、イーサネット ケーブルで 1 台目の PM のポートと 2 台目の PM のポートをつなぎ、ネットワーク スイッチ経由でネットワークに接続します。
- **リモート管理コンピュータが管理ネットワークに接続されているか、ルーティングされていることを確認します。**
- 1 台目の PM にモニター、キーボード、およびマウスを接続します。詳細については、「[サイトとシステムの準備](#)」を参照してください。

次の図は上記の接続方法を示すものです。



注意: 1台目のPMにソフトウェアをインストールする場合、そのPMにキーボードとモニターを接続します。2台目のPMにソフトウェアをインストールする場合、そのPMにキーボードとモニターを接続します。ソフトウェアのインストールが完了したら、システムからキーボードとモニターを取り外します。

ステップ 4: ISO イメージを取得する

次のように ISO イメージを取得してブート可能なメディアを作成します。

1. インターネットに接続している任意のコンピュータで、**everRun サポート ページ** (<http://www.stratus.com/go/support/everrun>) に移動します。
2. everRun ソフトウェアの ISO イメージ (`everRun_install-7.x.x.x-xxx.iso`) をダウンロードするには、**[Product Download (製品ダウンロード)]** の下で **[everRun 7.x.x.x ISO Image]** をクリックします。ISO イメージを保存します。
3. 次のように ISO イメージを使用してブート可能なメディアを作成します。
 - ISO イメージを DVD に書き込むには、汎用のアプリケーションを使用します。たとえば、Roxio アプリケーションがインストールされている場合は ISO ファイルを右クリックして DVD に書き込むオプションを選択します。
 - ブート可能な USB メディアを作成する手順については、「[ブート可能な USB メディアを作成する](#)」を参照してください。

場合によってはダウンロードの処理中に ISO ファイルが破損されることがあります。ソフトウェアをインストールする時点でインストール メディアを検証するよう指定できます。

詳細については、「[everRun Enterprise ソフトウェアをアップグレードする](#)」を参照してください。

ステップ 5: everRun ソフトウェアをインストールする

everRun ソフトウェアのインストール処理を完了させるには 60 ～ 90 分ほどかかります。

1. 次の手順で 1 台目の PM に everRun ソフトウェアをインストールします。
 - a. 1 台目の PM の電源をオンにしてから、メディアを挿入するか ISO イメージをマウントします。
 - b. PM の電源がオンになったら、ファームウェア (BIOS または UEFI) セットアップ ユーティリティで次の設定を構成します。
 - 最初のブート デバイスを光学式ドライブに設定します。
 - Virtualization Technology を有効にします。
 - Execute-Disable Bit Capability を有効にします。



注意: キーボードに異なるレイアウトを構成するには、「[キーボードをマッピングする](#)」を参照してください。

- c. インストール ソフトウェアのウェルカム画面で、矢印キーを使ってインストールのオプションを選択します。Stratus では、初回インストールの場合は **[Verify medium and Install (メディアを検証してインストール)]** を選択することを推奨します。このオプションは、ソフトウェアをインストールする前にインストール メディアの検証を行います (検証を行うとインストール処理に 5 分ほど長くかかります)。メディアの検証を行わない場合、**[Install everRun, Create a new system (everRun のインストール、新しいシステムの作成)]** を選択します。オプションを選択したら、**Enter** キーを押します。
- d. ブート ディスクに以前インストールしたデータが含まれる場合、次のメッセージが表示されてシステムがリブートします (ブート ディスクに以前インストールしたデータが含まれていない場合はインストールが次のステップに進みます)。

Rebooting because disks XXX were erased.

リブートが完了すると、ブート メニューが再び表示され、もう一度インストールのオプションを選択する必要があります (上記のステップ 1c)。

- e. **[Select interface for private Physical Machine connection (プライベート物理マシンに接続するインタフェースの選択)]** 画面で、内蔵ポート (たとえばデフォルト設定の **em1**) を選択して、**F12** キーを押します。
- f. **[Select interface for managing the system (ibiz0) (システムを管理するインタフェースの選択 (ibiz0))]** 画面で、内蔵ポート (たとえばデフォルト設定の **em2**) を選択して、**F12** キーを押します。
- g. **[Select the method to configure ibiz0 (ibiz0 を構成する方法の選択)]** 画面で **[Manual configuration (Static Address) (手動構成 (静的アドレス))]** を選択して **F12** を押します。



注意: 動的 IP 構成を実行するには、**[Automatic configuration via DHCP (DHCP による自動構成)]** を選択して**ステップ 1h**に進みます。その場合、「**管理 IP アドレスを記録する**」で説明されているように IPv4 アドレスをメモする必要があります。

- h. **[Configure em2 (em2 の構成)]** 画面でネットワーク管理者から受け取った IPv4 アドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレス、および DNS アドレスの値を入力して **F12** を押します。
 - i. その後 PM がリブートするまで操作は必要ありません。リブートしたら、ブート可能なメディアを取り外すか ISO イメージをアンマウントして、2 台目の PM にモニタとキーボードを接続し、**ステップ 2**に進みます。
2. 次の手順で 2 台目の PM に everRun ソフトウェアをインストールします。
- a. 2 台目の PM の電源をオンにしてから、メディアを挿入するか ISO イメージをマウントします。
 - b. PM の電源がオンになったら、ファームウェア (BIOS または UEFI) セットアップユーティリティで **ステップ 1b** の説明に従って構成を行います。
 - c. インストールソフトウェアのウェルカム画面で矢印キーを使って **[Replace PM, Join system: Initialize data (PM の交換、システムの結合: データの初期化)]** を選択し、**Enter** キーを押します。

- d. ブートディスクに以前インストールしたデータが含まれる場合、次のメッセージが表示されてシステムがリブートします (ブートディスクに以前インストールしたデータが含まれていない場合はインストールが次のステップに進みます)。

Rebooting because disks XXX were erased.

リブートが完了すると、ブートメニューが再び表示され、上記のステップ 2c から操作を続ける必要があります。

- e. **ステップ 1e ~ 1h** を実行します。
- f. その後 2 台目の PM がリブートするまで操作は必要ありません。リブートしたら、ブート可能なメディアを取り外すか ISO イメージをアンマウントし、キーボードとコンソールを取り外して、everRun 可用性コンソールにログオンします。

ステップ 6: everRun 可用性コンソールにログインする

1. リモート管理コンピュータから、ブラウザのアドレスバーに node0 (プライマリ) の IP アドレスを入力します。
2. everRun 可用性コンソールのログインページが表示されます。[**ユーザ名**] に **admin**、[**パスワード**] に **admin** と入力し、[**ログイン**] をクリックします。
3. Stratus everRun の EULA が表示されます。EULA を読み、その内容に同意する場合は [**同意する**] をクリックします。
4. [**初期の構成**] ページが表示されます。デフォルトでは [**通知**] の下の [**サポート通知の有効化**] ボックスがオンになっています。everRun システムから Stratus 認定サービス業者サービスプロバイダに稼動状態およびスタータスの通知が送信されないようにするには、このチェックボックスをオフにします。この設定は後でも変更できます (「[リモート サポート設定を構成する](#)」を参照してください)。
5. [**システム IP**] の IP アドレスに、担当のネットワーク管理者から受け取ったアドレスを入力します。ネットワークの情報を入力したら、[**続行**] をクリックします。
6. [**ポータルの再起動が必要**] ウィンドウが表示されます。ウィンドウの表示に従って 1 分ほど待機してから、[**OK**] をクリックしてコンソールをリフレッシュし、操作を続行します。
7. [**ライセンス情報**] ウィンドウが表示されます。[**ライセンス キーのアップロード**] の下で [**参照**] をクリックし、Stratus から取得したライセンス **.KEY** ファイルを参照します。ライセンス ファイルを選択して [**アップロード**] をクリックします。

セキュリティ保護のため、[**ユーザとグループ**] ページで **admin** アカウントのデフォルトのユーザ ログイン名とパスワードを変更してください。

everRun 可用性コンソールが表示されます。今後コンソールにログインする際に使用できるよう、このシステム IP アドレスをブックマークに保存するか、メモします。

ステップ 7: 保護された仮想マシンを作成する

仮想 CD (VCD) を作成して、ソフトウェア インストール メディアを仮想マシン (VM) で使用できるようにします。

1. everRun 可用性コンソールで **[仮想 CD]** ページを開きます。
2. **[VCD の作成]** をクリックして**仮想 CD の作成ウィザード**を開きます。
3. 作成ウィザードの指示に従います。詳細については、「[仮想 CD を作成する](#)」を参照してください。

次に新しい仮想マシン (VM) を作成して、everRun システムにゲスト オペレーティング システムをインストールします。

1. **[仮想マシン]** ページで、**[作成]** をクリックして **VM 作成ウィザード**を開きます。
2. 作成ウィザードの指示に従います。詳細については、「[新しい仮想マシンを作成する](#)」を参照してください。

オペレーティング システムをインストールした後、ゲスト オペレーティング システムに関するその他のタスク (ディスクの初期化やアプリケーションのインストールなど) を実行します。詳細については、「[インストール後のタスク](#)」を参照してください。